

病院の 実力

～山形編 72

病院の実力「腰と首の手術」

医療機関別2012年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰椎椎間板ヘルニア	②で切除・形成術のうち低侵襲手術	③で切除・形成術のうち低侵襲手術	④で切除・形成術のうち低侵襲手術	⑤で切除・形成術のうち低侵襲手術
山形					
東北中央	70	0	410	0	5
山形済生	47	28	68	0	4
日本海総合	26	0	116	0	2
公立置賜総合	23	15	32	0	0
山形大	0	0	19	0	9
秋田					
秋田労災	116	0	42	0	0
秋田組合総合	82	54	233	0	2
市立横手	36	5	66	0	1
秋田赤十字	31	13	42	0	0
仙北組合総合	30	2	85	0	4
秋田大	29	10	109	52	17
中通総合	26	0	28	0	0
羽後町立羽後	22	0	47	1	0
仙台整形外科	126	43	151	72	4
総合南東北	78	78	85	65	3
仙台社会保険	73	0	98	0	3
宮城					
松田	49	0	143	0	0
東北労災	28	0	132	0	8
みやぎ県南中核	10	0	4	0	0
宮城中央	7	0	26	0	0
東北大	0	0	19	2	26
福島					
大原総合	70	54	107	15	2
寿泉堂総合	61	0	24	0	1
総合南東北	57	27	96	6	15
さとう日出夫整形外科	32	32	46	24	0
公立岩瀬	14	0	20	0	0
福島県立医大	12	10	85	10	15

日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会が認定する指導医がいる施設などを対象に調査。

今回の「病院の実力」は「腰と首の手術」をテーマとした。「腰椎椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰痛が痛む病気だ。「腰部脊柱管狭小症」は、加齢によって椎骨をつなぐ靭帯が厚くなっ

腰と首の手術



田中靖久
東北中央病院長

「低侵襲」

体の負担軽めだが

たり、椎骨がずれたりして、神経が通る脊柱管が狭くなっている。

東北中央病院（山形市和合町）の田中靖久病院長（59）によると、近年、高齢化の進展で腰部脊柱管狭小症の患者

数が急激に増加しているという。東北大病院や東北中央病院など東北地方を中心とする計45病院が集計したところ、腰部脊柱管狭小症の2010年の患者数は、1988年と比較して約8・5倍に増えており、田中病院長は「高齢化が進む県内でも同様の傾向にある」と説明する。

こうした病気の手術について今回、体の負担が少ない「低侵襲手術」の件数を明示した。日本整形外科学会が、内視鏡を使った脊椎手術について技術認定医のいる病院名を公表しており、ホームページで確認できる。

ただし、脊椎腫瘍の手術では脊椎のすぐそばの部位にメスを入れるため、失敗した場合、足が動かなくなる可能性もある。田中病院長は「手術の難易度は高くないが、失敗した場合の危険性が大きいので、脊椎腫瘍の手術経験が豊富な医師から手術を受ける必要がある」と強調している。

低侵襲手術とは、顕微鏡や内視鏡を使って、皮膚や筋肉、じん帯の切開幅を小さくして行う手術のことだ。手術後の回復が早く、入院期間が短くなる傾向がある。

例えば内視鏡を使った手術では、皮膚を数センチ切開して内視鏡を挿入し、患部を間近で確認しながら手術を進める。こうした手術は、光学機器などの技術の進歩により件数が増えている。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は2月2日「頭頸部がん」の予定です。

